

新しい予想手法の導入に伴い  
新たに配信するコード電文の形式

平成29年7月  
気象庁地震火山部

# 新規電文の概要

- 以下の新規電文を気象庁から配信します。
  - リアルタイム震度電文 (工学的基盤面の値)
    - 当該地震について、対象観測点となる気象庁地震観測点・震度観測点で対応する予報に用いたリアルタイム震度を工学的基盤面の値に変換して記述します。
    - 地表面のリアルタイム震度で2.5以上の観測点のみを記述します。
- この電文は、緊急地震速報(予報)を発表したタイミングで発表します。
- 全対象地点(全国)における情報を一括で配信します。
- 基本コード部には、この新規電文を発表する契機となった緊急地震速報(予報)と同じ内容を記載します。
- 地点を示すコードは、既存の震度情報のXML電文の観測点コードに整合させます。
  - なお、震度情報の観測点には無い地点のデータを使う場合も考えられます。その場合、既存の震度情報の観測点コードに影響しないよう、アルファベットを使用することがあります。
- 電文の伝送(通信)上は、データ量削減のためgzipで圧縮してバイナリー形式の電文で配信します。

# リアルタイム震度電文の電文形式(1)

- リアルタイム震度電文の電文形式

```
aa bb nn yiyimimididihimimisisi Cnf yoyomomodohohomomososo NDnnnnnnnnnnnnnnn
NCNann JDnnnnnnnnnnnnnnn JNnnn kkk nddd edddd hhh mm ss
RKn1n2n3n4n5 RTn1n2n3n4n5 RCn1n2n3n4n5
{EIP [{ff...ff Pe1e2}...]}
9999=
```

基本コード部 ( 共通項目 )

aa bb nn yiyimimididihimimisisi Cnf : 基本コード部 ( 共通項目 )。従前の緊急地震速報と同じ。

aa : 電文種別番号

61 : リアルタイム震度

基本コード部 ( 電文別項目 ) : この電文を発表する契機となった緊急地震速報 ( 予報 ) と同じ内容。

yoyomomodohohomomososo NDnnnnnnnnnnnnnnn : 地震発生時刻、緊急地震速報用地震 I D

NCNann : 電文番号

JDnnnnnnnnnnnnnnn JNnnn : ( 気象庁内部利用 )

kkk nddd edddd hhh mm ss : 震央地名コード、震源の緯度経度、深さ、マグニチュード、最大予想震度

RKn1n2n3n4n5 RTn1n2n3n4n5 RCn1n2n3n4n5 : 震源の確からしさなど。

PLUM法導入後の緊急地震速報 ( 予報 ) と同じ。

# リアルタイム震度電文の電文形式(2)

EIP [{ff...ff Pe1e2}...] : 観測点毎のリアルタイム震度

EIP : リアルタイム震度を、観測点単位で表すことの指示符

ff...ff : 地点コード (XML電文と共通)

Pe1e2 : リアルタイム震度の最大値

P : 指示符

e1e2 : リアルタイム震度の値 (工学基盤面上の値) (-9.9~9.9)

e1・e2はそれぞれ、数値の整数部分・小数部分

計測震度と同様に、小数点以下1桁までとする。(階級震度ではない)

(例) リアルタイム震度 : -8.0 -1.0 -0.1 0.5 2.4 4.0 4.5 6.5

表記(e1e2) : H0 A0 -1 05 24 40 45 65

//:不明・未設定時

(その他観測点に関する情報をe1e2にアルファベット等で表現する場合があります。)

(注意) 電文に盛り込むべきリアルタイム震度が無い場合は、この部分

( EIP [{ff...ff Pe1e2}...] )全体を入れず、基本コード部と情報の終端のみとする。

9999= 情報の終端を示す識別子

9999 : コード部の終わりを示す識別子 (1バイトの数字の9を4個連続)

= : 電文の本文の終わりを示す識別子 (1バイトのイコール記号)

# リアルタイム震度電文の例

